

## 外国為替市場の実態 — BIS 為替調査

先日日銀の為替介入が何度かあったが、その効果について様々な見方がなされた。その中に外国為替市場は 1 日 6 兆ドルも取引されているので数百億ドルの介入では焼け石に水にもならない、と言った議論が多く見られた。

この 6 兆ドルの数字は間違いだ。世間で為替と言うときに指しているのは外国為替取引の一つであるスポット(直物)取引だ。6 兆ドルの数字には為替スワップ取引などの取引も含まれる。介入はスポット市場で行われるので比較するなら市場のスポット取引額を見る必要がある。スポット取引額は 2 兆ドル程度だ。ただこれらの数字は 2019 年に BIS が調査した時のものだ。

3 年ごとに BIS(国際決済銀行)は各国中央銀行の協力のもと世界の外国為替について調査しているが、その最新版(2022 年 4 月調査)が先週公表された。このデータについていくつかのポイントを挙げる。

\*世界の外国為替取引高は一日 7.5 兆ドルになった。前回よりも 14%増加、2010 年に比べると倍近くに増加した。一番多い取引は為替スワップ取引で全体の 51%を占めた。スポット取引は 28%で前回よりも 2%減った。為替スワップ取引は直物と先物の為替を同時に反対売買する取引で資金取引目的が多く、他に先物取引のカバー取引にも利用される。

\*通貨別ではドルが全体の 88.5%を占め圧倒している。この傾向は変わっていないが割合は増加傾向にある。つまり市場取引のほとんどが対ドルと言うことだ。次がユーロで 30.5%、2010 年には 39.0%だったが、毎回減少してきている。円は 16.7%、ポンドは 12.9%、いずれも前回とあまり変わらない。今回の調査で最も目立ったのが人民元だ。前回の 4.3%から 7.0%と大きく増加した。オーストラリアドルとカナダドルを抜いて 5 位に上昇した。なお一つの取引に 2 通貨が絡むので全体では 200%になる。

\*通貨ペアに関してはユーロドルが 22.7%と最も多いが、傾向としては減少傾向だ。次がドル円で 13.5%、ポンドドルが 9.5%と続く。ドル人民元が 6.6%と増加傾向が著しい。ドルカナダドルも 5.5%と増加傾向を示した。

クロス取引では、ユーロポンドが最多だが2.0%に留まる。次のユーロ円は1.4%で、その他は1%にも満たない。

\*市場別ではロンドンとニューヨークが過半を占め圧倒している。ロンドン市場が38.1%を占め、統計開始以来世界最大の市場の地位は変わらない。前回(43.2%)よりも減ったが、もっと長いスパンで見ればそれほどの変化は見られない。次がニューヨーク市場で19.4%、ずっと二番目を維持している。3位はシンガポールで9.4%と前回(7.7%)に比べ大きく増加した。前は香港とほぼ同じだったが、今回ははっきり差がついた。香港は7.1%だった。香港の中国化による香港からシンガポールへのシフトは確実なトレンドになっている。

日本は4.4%で5位だった。前々回から5位に落ちたが、その差は広がってきた。2010年まではロンドン、ニューヨークに次いで世界3位だったことを思うとその凋落ぶりは痛い。政府と東京都は国際金融都市構想を掲げているが、念仏にしか聞こえない。